御什雲水録

十二

へ13
3942
12

門へ13
號3942
卷10

茶磯榮

大正十年八月九日寄贈
本大學圖書部

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一　五年後ちを活びて沖縄を奪還

酒井雲水流産を拾

西田敬貝流産を活ずる

古流というて西宮の人なりと申かけて

と実は西田右門宮本の

はりと形をめらんとして

琴を乙と時を乙と

まうと敬貝への書

ものを和さるを

五年のを見る流

源吾しのそおかひ出し゛さくらたてられ
まつ事詫(おこ)りゐるくをさつり山家専
こ風情のちらきさハ一ふたこういふいやと
おきひ催(もよほ)しさらをいかめ新しつ京、
田舎しき事にとする一万く在けんかる
大門口にハ井の南を投よ門新表の隅
昔ま世毎をいふくさ弘(ひろ)く猿(?)島のいくすり
山城お擽(てとり)ハ力をうばはれよきする菊(ばら)花を(ころ)猿

指(ゆび)をきつて血判しし向ひし
西浪(せんひ)書(うら)つき抜ず(ゆう)をあらハ(このへ)い
源吾をくら果(ちき)し切(せつ)しせんてあらそ(りつとも)て
おもりきしれば騒動(さうどう)の道(ごんでう)へと(ちく)致し
そんぎもりまし十(りんてい)数く果し
おやばハ世(せがれ)あまへつ寺の出す(て)へと
いづれもしらバ(しご)死んのちぎよし
出し出つみ仲し(そこがさがん)寺無据つめり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清じ茶屋をこの人酒まもりもき
く薬寺ひもらめん稲くの赤羽を
おもて池の端しりぐ御成道も
おもびはれば伝通院一村のぐくを合
いふらずして左れば本郷じも道ゆつ
中山で七瀬摺しわらわらまへ人
つきしめぐらちり道てのゐくれ
千駄木をかゝ帰りしを呼ふれ

結句四もかりなん第せん物
ふるきのしそありし生き禅通
しそ来而をきりれ董米の松の
木の子をゆる月落おりし行く
膳も岩屋の池をそらさく
またの滝しら保ひありて志門を
七ケとも初めくしん生前くつれ
藤の花問じめざめの思ひより

おもし思づきん日月(じつげつ)より光(ひかり)もまゐ
こゝろ悪(あく)ちん殺(せつ)生(?)善悪(ぜんご)まよふて極(ごく)悪(?)
人(にん)間(げん)も雲(くも)とかくれ三ケ(?)の大男(おとこ)あり
浄(じやう)土(ど)をねがわずして自(じ)らの業(ごう)悪(あく)も罪(つみ)深(ぶか)き
手(て)を空(むな)しくして一生(いつしやう)は命(めい)の場(ば)にて
ごをこらふりうが道(だう)ひとも年中(ねんぢう)にて
後(うし)ろ暗(くら)き誠(まこと)の勤(つと)め(?)行(ぎやう)をせで
うやまへを心(こゝろ)して我(わが)身(み)のゆくべしと

後(うしろ)をはなれて無(む)二(?)の信(しん)心(?)に其(それ)が
對(たい)して仏(ぶつ)の因(いん)縁(ゑん)にて其(そ)の心(こゝろ)みるがゆゑ
念(ねん)仏(ぶつ)申(まう)し縁(えん)起(き)を知(しる)あなたの
一念(いちねん)を受(う)けざれば後(ご)世(せ)の縁(えん)起(き)あるべし
衆(しゆ)生(じやう)の金(こん)輪(りん)際(ざい)の奈(な)落(らく)に沈(しづ)むべし
まことに後(うし)ろの事(こと)を見(み)すなはち前(まへ)に
と浄(じやう)土(ど)も一(ひと)筋(すぢ)にて無(む)量(りやう)の
して我(われ)らこゝろに目(め)をかける者(もの)ども

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ニおゐず事は山學其のぶのまゝ
よろし言知らざり深淵の
こかん何ぞ面々對して無面目を
こくもちは志すにて楽しむ趣の
ちかり先生へ淋麻が晴も
いかし仰し先年龍ぞほし斯面
せし西年おりんさすぎて帝云
あはせ合治名までありし芳家は

誠くらの親が筆道ゟあれば左右
時に示の事あり子孫の孫もおろ
むて自ず何とも當世を書すべし
書家を集しては古人のおそれ書
筆との筆意時はちりて也
ゆか人判例作へし是後日子孫
の為ありまして共和して錦其村
るる付い書手のあけばき師て子孫の

爰に更しらかみの下にて山賊に思案
一念して大組頭衆へ一手を渡し
我らは硯にも粉末不通にて
扨は漢の一人を見とゝまり候
其の内も知らるゝもの也
おもむきうしろの
其の日一勝は次郎左衛門へ所々の
其の夢をもしれ見附へ封じて

其夜に到り今宵有りけ六時と
して信州を立出で是より寺家
内のあなたの夜半より初ふ
まで陣屋へくだりし智謀これの
所々に思し召ば運
おもひ東角を以申なに刀箱り
古畑次郎左衛門に手付けらるへ
覚よりも申しなから次郎左衛門も

罪させらし 傍舎はれバ郷よの御に
甚又出来ひろれ半り可も有りますま
まちらね 牢獄所でいますう權ニき
の事寺じいつぞも今 種類のどころ
泥くらきてろ 切られ竹の夏斗涙に
どうじやらして何事も打わかも
お屋形れ 逆手の おもむき 刺すもの
泥中わり三昧んの中つぎぐ 其のぶん

申ていさし 置づくかろちまれ 悔け
面御手家老中まで 刻のおわかれ
まかせ 砥目知ぬつ一藩田右つゆへ隠居
伝来の思じぬ とらって 西ききさ
無意の事れ 思召残し 仕付兎様
あ前義しめがう 陪人の雅ぞんと受
至時い一流のつまんこ 俊すらうろの
候しら 擔当世では 玄居の仕間ぐる

遠ひすも赤間関とて海とくび
[illegible]人の口を[illegible]
[illegible]びの[illegible]れ[illegible]
[illegible]口[illegible]武士道
[illegible]
[illegible]相[illegible]
[illegible]打[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]事[illegible]武士の[illegible]
[illegible]あ[illegible]一合[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

披露(ひろう)せよ[illegible]上手(じやうず)[illegible]も

和[illegible]の[illegible]人

宗[illegible]花の[illegible]して[illegible]の

事[illegible]もあり[illegible]人

武士(ぶし)の[illegible]

都(みやこ)にて源[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人の[illegible]

の[illegible]

[illegible]

[illegible]一首[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]人[illegible]

[illegible]

拝〳〵と目出度[illegible]之
[illegible]しけれ[illegible]して[illegible]
[illegible]れ[illegible]しお[illegible]の[illegible]
[illegible]見[illegible]れ
[illegible]おぼ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]一[illegible]
[illegible]一[illegible]
[illegible]のの[illegible]
[illegible]

心にハむまのりかゝる異人振舞
来りし様子何れも時宜よく候
無礼のなきやうに心得て其人の
心得ちがひあらバ志らせて候
何事もかたく申間敷候
ちり急ぐべくいたせバその心得
差しいかひ馬のみえず
さらに其事ハ[illegible]事

叶はず其外[illegible]いでて[illegible]の
めんどうおこなひ其[illegible]
出来ちかしく[illegible]
居てりしが[illegible]思ひ度候
木の[illegible]をかさねて[illegible]
其よりのぼりて[illegible]
おしらせ[illegible]社の[illegible]
[illegible]馬の[illegible]の[illegible]

て有ければ由来是をたづね捜其
事の由をくはしく語りければ糸を
わたしこれを枝にさげて結び
おきし神のちからのふしぎや心を
抑ひとへに是しかず三寸を
出ゞとく帰りまうし観音の霊を
宿しかれ給ふ仏のちかひをおどろき
毎朝のごとく経をよみて

有ふじをよぶことぜん夜の
ごとし家来のまゝ馬にのり
てりぞ行ければ丹平はよく
ふし義をかはひきねが明ぐる
まい月りて立ろくて丹平を
あくるていちく敵もかくとぞ
も今日まで十がなきけふろく
其母のゆしの有様作をなし

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]